

統合科目	インプラント・固定性補綴学	[講義] 第3学年 後期 必修 3単位
------	---------------	---------------------

《担当者名》○ 歯学部教授 / 會田 英紀 歯学部准教授 / 廣瀬 由紀人 歯学部講師 / 仲西 康裕

【概 要】

クラウン・ブリッジ補綴学は、歯冠部分の大きな実質欠損、あるいは1歯以上全部の歯やその周囲組織の欠損を人工材料（補綴装置）で補い、喪失あるいは低下した機能（食物摂取、咀嚼、嚥下、発音）と外観の回復、改善をはかるとともに、咀嚼系（歯、歯の支持組織、顎関節、下顎骨に付着する筋、口唇、舌ならびに各組織に分布する血管系と神経系）の異常を予防することに関する理論と技術を研究する学問で、歯学としては特徴の多い重要な臨床学科である。本統合科目においては、クラウン・ブリッジ補綴学の定義、分類、具備要件、生物学的要件、審美性に関する要件、歯冠補綴材料の選択。臨床編として前準備（検査、補綴前処置、診療計画と設計）、臨床処置などについて、その体系の概要を把握すると共に補綴学用語についての知識を集積・習得する。

【全体目的】

クラウン・ブリッジ補綴学を習得するには、正常な形態や機能に関する知識のほかに、歯の欠損が生体に与える形態的ならびに生理的变化を十分に把握しておくことが大切である。とくに歯科補綴学の目標とする、生個体の機能に合理的に適応しながら、長期にわたって生体と調和した良好な状態でクラウン・ブリッジを十分に機能させるためには歯学全般にわたり基礎と臨床系の幅広い知識と臨床実技とが必要になる。

【学修目標】

クラウン・ブリッジ補綴学の定義について説明できる。
 クラウンとブリッジの種類とその構造について説明できる。
 クラウン・ブリッジ治療の利益と不利益について説明できる。
 正常有歯顎者の下顎運動、下顎位について説明できる。
 クラウン・ブリッジ補綴治療の流れを理解する。
 クラウンやブリッジ製作について説明できる。
 クラウンとブリッジの補綴治療に必要な機器や材料について説明できる。
 クラウンやブリッジの装着後の患者指導について説明できる。
 歯科補綴処置における感染予防対策や器材の滅菌・消毒について説明できる。
 歯科補綴処置における歯科衛生士の役割・歯科技工との関連、患者に対する指導方法などについて説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	クラウン・ブリッジ補綴学の総論と臨床概説（1）	総論 1．クラウン・ブリッジ補綴学の定義を説明できる。 2．クラウン・ブリッジ補綴学の具備要件を説明できる。 3．クラウンの種類を説明できる。 4．ブリッジの種類を説明できる。 臨床概説 1．検査および診断を理解する。 2．治療計画を理解する。 3．インフォームドコンセントを説明できる。 4．補綴前処置を説明できる。 ・「新・衛生士教育マニュアル 歯科補綴学」P 1 0 - P 2 2、P 9 1 - P 9 6	會田 英紀 廣瀬 由紀人 仲西 康裕
2	クラウン・ブリッジ補綴学の臨床概説（2）	5．支台歯形成を説明できる。 6．プロビジョナルレストレーションを説明できる。 7．印象採得を説明できる。 A．間接法の概説 B．歯肉圧排 C．印象材の種類・所要性質	會田 英紀 廣瀬 由紀人 仲西 康裕

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		D．使用器具 E．印象法 ・「新・衛生士教育マニュアル 歯科補綴学」P 9 6 - P 1 0 7	
3	クラウン・ブリッジ補綴学の臨床概説（３）	8．作業用模型を説明できる。 A．構成と要件 B．模型材の種類と取り扱い法 C．歯型の修正 D．関連器具 E．作業用模型の種類 9．咬合器付着を説明できる。 A．咬合関係の決定 B．下顎運動の記録 C．顔弓による記録 ・「新・衛生士教育マニュアル 歯科補綴学」 P 1 0 7 - P 1 1 3、P 2 3 - P 3 6、P 1 6 1、 P 1 6 3	會田 英紀 廣瀬 由紀人 仲西 康裕
4	クラウン・ブリッジ補綴学の臨床概説（４）	10．クラウン・ブリッジの製作法を説明できる。 A．金属の加工 B．陶材の加工 C．レジンの加工 11．試適、仮着、装着を説明できる。 A．試適 B．仮着 C．装着 12．術後管理を説明できる。 A．メンテナンス B．リコール ・「新・衛生士教育マニュアル 歯科補綴学」 P 1 1 4 - P 1 1 9、P 1 5 5 - P 1 5 9	會田 英紀 廣瀬 由紀人 仲西 康裕
5	クラウン・ブリッジ補綴学の臨床概説（５）	クラウン・ブリッジ補綴学の臨床概説（１）～（４） までの講義から理解が不十分だった内容を復習する。	會田 英紀 廣瀬 由紀人 仲西 康裕

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

卒業試験100%

【教科書】

「新・衛生士教育マニュアル 歯科補綴学」佐藤 亨、越智守生、越野 寿 他編著 クインテッセンス出版

【参考書】

「最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常 1 歯科補綴」松井恭平 他編集 医歯薬出版

【学修の準備】

前年度までの教科書および講義資料、プリントを整理し内容について確認しておく。（20分）

授業ごとに実施した内容を元に復習をする。（40分）

【実務経験】

會田 英紀（歯科医師）、廣瀬 由紀人（歯科医師）、仲西 康裕（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

インプラント・固定性補綴学は、歯の実質欠損により喪失または低下した機能と外観の回復をはかるとともに、咀嚼系の異常を予防することに関する理論と技術を研究する学問で、歯学としては特徴の多い重要な臨床学科である。したがって、学理にのっとった教育内容と歯学全般にわたる幅広い知識に立脚した臨床実務を背景とした経験談が対をなすことで優れた教育成果が期待できる内容となっている。